

感想

荒井

結雪

感性論哲学と問いて、はいめはとも難し

そうで理解できるところが不安だ。だが、読

み進めていくうちに、自分が人間として足り

ていない部分や、そこを伸ばしていく為には

どうすればいいのかわかるところに。

大きく言えるのが、全て自分次第という事

だ。本物の人間の条件がある、不完全性の自

覚から読み出る謙虚さ。の部分では、私は人

事でもプライバートでも人より沢山失敗して

いると思う。自分は、失敗する事でしか真の

成長に繋げる事ができない人間だ。という事は

分かっている。失敗をただの失敗で終わらせ

たり、忘れて生きるのはなく、自分の意識

の中に置き、謙虚に生きなければ、ずうと同

じ事の繰り返しで生きてしまう事にな、とし

まう。人より不完全な部分が多かっただけで

も、逃げずに立ち向かい、乗り越えていく事

で成長していくかなければ、人間としての面白

みが無くなってしまうと思う。
 一、より以上を目指して生きる、
 というのは、私は難しい事や面倒くさい事からいつ
 も逃げてきたと思う。目標も達成できないよ
 うな高い目標は掲げてこなさか。たと思うし、
 自分の能力に限界を決めて、自分が成長を止
 めてしま。ていた。今までそれを切体ない事
 だと感じてはいた。しかし、本物の人
 間にな。ていく為には、その意識を変え、自
 分を成長させる事を常に考え生きてなければ
 と感じた。
 一人の役にな。人問にな。と、いう部分に
 関しては、人の役に立つ事はあ。たして、も、
 どうしても私でなければ駄目なの。だ。というよ
 うな役の立ち方はしていいなか、に。ではな
 い。かと思う。誰にでもできる事であ。たり、簡
 単な事を自分で選択して、いる事もある。難題
 であ。たして、も、努力をして難題に取り組み、
 その苦労が報われた時、人間としての価値が
 生まれ、自分の価値が生まれるので、人の役

に立っ為の努力をもつとしなければと思つた。
この三つは自分を成長させてくれるといふ
事を忘れず取り組む事が大切だといふ事が分
かつた。人は育つた環境や考え方が違ふので、
中々今までの考えを変へる事は難しいけれど
本物の人間で、今の自分のままでは駄目なだけ
で、自分を変へたい意識は出てきている。ま
ずは意識する事からで、少しづつでも本物
の人間になる努力をし、この哲学に慣れてい
く事が必要だと感じた。本を読まなければそ
う感じる事はできなかつたし、気付く事もで
きなかつたと思う。
人との出会いも本との出会いも偶然ではな
いと思う。自分に必要な事、足りていない事
を教えてくれる出会いを大切に、自分を成
長させてくれる事から逃げずに生きていく。

感想

荒井

結雲

境涯編では、自我を鍛えようというところが、大

切であり、一つの自我を鍛えればいいもので

はなく、段階的に成長していくものだから

ここが分かった。そして、自分の意志の強さ

によって決まってくる。第四の自我の理念的

自我は、自分の意志を貫くものであり、

第六の自我も統合的の自我も、全てが利であり

得であるという考えを常に持つて行動できる

かどうかは、自分の意志の力によって変わ

てくるものである。私は意志の力が弱い。や

はり生き癖である、楽な方、楽しい方へと

傾いてしまふ。今までの私は、人間として

の成長という所に論点を置いたことが無か

らから、この本を読んでも、実際自分にこの

様な行動が取れるのか、また、この哲学が自

分のものになるまでに、どれだけの時間が掛か

るのかと不安な部分がある。しかし、先生に

出合い、この本に出会い、私に必要なことな

の「だ」ということは分かっている中で、逃げずに感性論哲学を自分のものにしていくようなものと読み込まずに、ただいけないうると思っただけ。短期間ではあるが、斎藤一人さんのお話も、毎朝繰り返し聞いていた事により、ふとした時にその言葉が浮かんでくるのは繰り返し考えるなことも浮かんでくるのは繰り返し考えるなうだと思っただけ。本を読むのは苦手だし、感性論哲学は私にとて難しかった。だが、逃げずに繰り返し読み込むことで自分のものになる時がくると信じ、苦手な事から逃げずに人間として成長していくに思っただけ。また、第二人称的自我の客体的自我で、相手の立場にならずに考えるのではなく、相手の立場にならずに感じる事が大切という部分が印象に残っている。今まで相手の立場にならずに考えたように、どう思うのかを考える事はあったが、相手の気持ちを実感として感じることはなかった。できると言うような人間にはなりたないと祈りと願いを強く持つた事は正直ない。そこまで思わなければ

れは、本当の相手の気持ちとは分からないう
ことは、今まで私の考えやアドバイスは、
「にのか、にだの自己満足であ、にのにう
かと申し訳なさをあげる。今まで様々
人に支えられ、自分に厳しくする事は、
避けて生きた自分が変わらなければい
けない。時が来たにと思、自分のことより
相手のことを一番に理解でき、相手から
信頼や信用を置いてもらえる人間にな
ると思。

自分の身に起こる全ての出来事は、
自分の責任ということを常に意識し、
自分の人間性を成長させていくこと
から逃げず、有り難く受け止め、
本物の人間として成長していこうと
思う。